

【多度津今昔物語】

～ひと・くらし・歴史が共生するまち たどつ～

WELCOME to TADOTSU

撮影地／高見島



デジタル観光マップ
「たどつたんぽう」も
ご覧ください！



多度津町
マスコットキャラクター
「さくらちゃん」

【多度津町へのアクセス】

- 高松空港から車で約50分
- 高松から車で約50分(高速道路で約30分)
- 琴平から車で約25分
- 瀬戸大橋・坂出インターチェンジから車で約20分
- 善通寺インターチェンジから車で約15分

■お問い合わせ

多度津町政策観光課

〒764-8501 香川県仲多度郡多度津町栄町三丁目3番95号

TEL(0877)33-1116 FAX(0877)33-2550

<http://www.town.tadotsu.kagawa.jp/>

表紙：藤原聖也撮影 題名「高見の結晶」

冊子挿入写真の一部に多度津町観光協会主催のフォトコンテスト入賞作品を使用しています。

藩

STORY



室町時代の山城「天霧城」

城下町としての多度津には二つの歴史があります。一つは相模国高座郡香川庄の出である香川氏が戦国時代に本台に居館を設けて多度津を城下町としたことであり、もう一つは江戸時代に丸亀京極藩の分藩が置かれたことです。

香川氏は約二百年間この地を城下とし、城郭として構築されたのが県下有数の山城として有名な天霧城です。

天霧山は、標高三八一メートル、鳥坂峠を見下ろし、瀬戸内海を広く展望できる戦略的にも重要な場所でした。戦国時代に、西讃一円を領有したと伝えられ、山頂の本丸付近には空堀、井戸、石垣の一部が残り、重要な文化遺産として平成二年に国の史跡に指定されています。

多度津藩「陣屋」

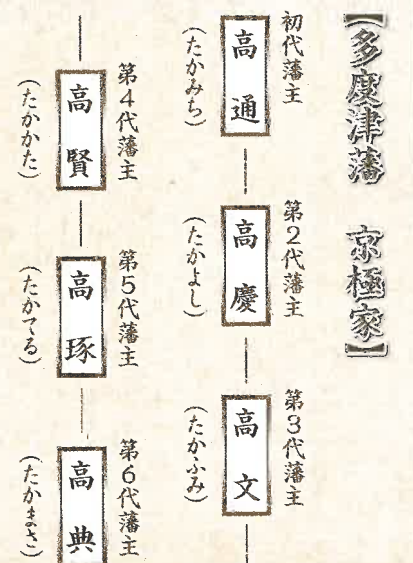
京極家が入部するに及んで、多度津は再び城下として息を吹き返しました。多度津藩の創設は元禄七（一六九四）年、京極高通公が一万石の初代藩主となり、以後高慶・高文・高賢・高琢・高典と明治維新までの百七十六年間に多くの文化的産物を残しています。

三代目藩主高文公までは丸亀城内の居館で執政し

ていましたが、四代目藩主高賢公の時に、文政九（一八二六）年、武家屋敷（陣屋・城の築造を許されない大名の屋敷で、天守閣や大規模な櫓・堀・城壁をもたないもの。）の構築工事にかかり、居館（御殿・新御殿）・調練場・武具庫・鼓楼・自明館（藩校）・剣術道場・藩米倉庫・作業場などを完備し、外郭、外門を三カ所設け、同十（一八二七）年に完成しました。

陣屋の敷地は、およそ六千六百坪で、御殿の正面には堀を渡って東側および中央の大手通りに面して武家屋敷を配していました。

また、五代目藩主高琢公は、天保五（一八三四）年から同九（一八三八）年まで五年の歳月を費やし、多度津湛浦（たんぼ・築港）の大工事を行い、瀬戸内海屈指の良港を築造しました。今日の多度津港の基盤を築いた名君と称されています。



文政十年「陣屋」は多度津に 新しい息吹を与える……。



多度津藩陣屋(家中)模型写真(資料館蔵)



林 求馬邸(奥白方)

江戸時代末期に家老であった林求馬が、外国船からの砲撃を避けるために、別の御殿を作るのに先立ち建てた家老屋敷。邸内には藩政時代の私学校「弘濟書院」も復元されています。



富井邸(家中)

富井家住宅主屋・新座敷・土蔵・門が、国の登録文化財として登録。主屋は、文政11(1828)年、その他は江戸末期に建築されました。富井泰蔵は、裏判方本役、江戸勤番など多度津藩での要職に長年就いていました。

問屋衆と藩士のコミュニケーションが やがて多度津の一大工事に発展する。



天保9年瀬浦完成後の多度津港(金毘羅参詣名所図会・巻四)

港の発展

港の歩みは、町の中心部を貫流する桜川付近に大小の船が停泊していたことに始まります。金毘羅参詣船や北前船の出入りも増加し、特に正月・十月の金毘羅大祭などには豊津橋付近まで両岸が船でいっぱいになったといわれています。

そして、船着場から浜町へ折り下がり、門前町・鶴橋を経て伊予街道にでる多度津道は金毘羅街道と呼ばれ、馬や駕籠の往来で賑わったといえます。

天保年間に入り、多度津の商人たちは、次第に業績をのぼし、繁栄の道をたどっていきましました。やがて桜川の港が手狭となり、新湛浦築造の要望も問屋衆の間からおこっていきましました。陣屋建築を機に、藩士たちと領内の庄屋、商人とのコミュニケーションも密接になっていくという予期せぬ効果が生じ、築港の機運が高まったとされ、前述のとおり、時の五代目藩主高塚公は町の発展は港をつくる

ほかはないと考え、幾多の苦難を克服し、五年余の歳月と巨費を投じ、完成させました。当時としては大工事であり、当時半年間で千数百艘の廻船が入港したといわれています。

この港の完成によって中国・九州・阪神、遠くは江戸方面から金毘羅大権現や総本山普通寺参詣の船客、諸国の物資集散地の拠点となり、多度津の廻船・問屋・商家の繁栄をまねき、瀬戸内屈指の良港となりました。

また、日露戦争時には、出征時や傷病者の帰還港として、その役目を果たしました。



「一太郎やあい」像

高見島・佐柳島

高見島の浦集落は、急な傾斜地に高い石垣を階段状に築いた本瓦葺きの集落で、伝統的建造物群に匹敵するたたずまいを呈しています。

さらには、波静かな瀬戸内海の美しい風景として映画スクリーンに幾度も映し出されています。



高見のたたずまい

高見島・佐柳島両島には、海岸沿いに遺体を土葬する墓(埋め墓)と石塔を建てて霊を祭る墓(まいり墓)を分けるという葬送制度を知るうえで珍しい墓制(両墓制)が残っています。佐柳島の長崎地区は県の指定文化財、高見島の浜・浦地区は町の指定文化財となっています。



佐柳：長崎地区の両墓制



高見：浜地区の両墓制



だいてんぐ

佐柳島本浦地区の山の中腹まで、つづら折りになった石段を登っていくと、大天狗神社があります。地元では、「だいてんぐさん」と呼ばれ、猿田彦神・木霊神を祀っています。そこには、大天狗の石像があり、参詣すると失せ物が見つかり、泥棒除けにもなるという言い伝えがあります。

北前船による瀬戸内海の物流拠点、 金毘羅参詣船の寄港地「多度津港」

回船問屋・船宿

そして金毘羅参詣客の賑わい

陣屋建設で多度津の町は一度に建設ラッシュとなり、大工・左官・石工・鍛冶などの職人が集まり、材木などの取り引きが盛んになりました。

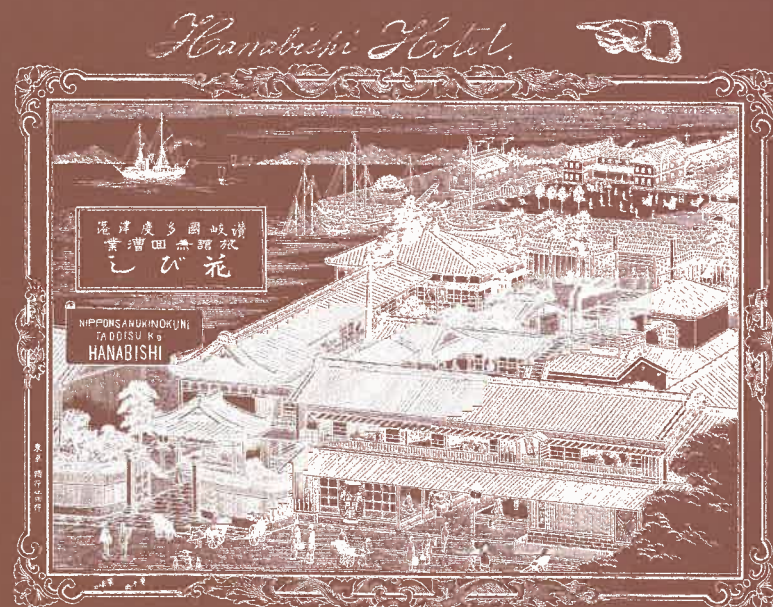
築港完成後、北前船の中継基地となり、北海道などからの海産物や商品、見返りの酒、衣料、雑貨の物流基地となり、一般の消費も増加し、人々の生活は活発化していきました。

ちなみに北前船は、讃岐三白の砂糖・綿・塩などを積み込み、西廻り航路で関門海峡を通り日本海を抜け、越前・佐渡・遠くは北海道まで廻船し、帰途は干鰯等の魚肥や海産物を持ち帰っていました。このことにより、取り扱う干鰯問屋も軒をならべて繁盛しました。

また、江戸時代の主役となって日本沿岸をくまなく廻っていたのが瀬戸内海を中心に発達した弁財（べざい）船でした。耐波性はありませんでした。



弁財船模型
(宝暦5年高見八幡宮に奉納)
(多度津町立資料館展示)



花びし 旅館

また、多度津の廻船問屋は、材木商、肥料商、砂糖商、穀物商などで栄え、造船や船の修理、精油業、酒造業、砂糖の製造なども盛んでした。

江戸期の様子を「金毘羅参詣名所図会」によると、

此の津は、円亀に続きての繁盛地なり。

原来波塘（もとよりはとう）の構へよく、入船の便利よきが故に湊に泊る船夥しく、浜辺には船宿、旅籠屋建てつづき、或は岸に上酒、煮売りの出店、饅飩（うどん）、蕎麦の担売（ふるいうり）、甘酒、餅菓子など商ふ者往来たゆる事なく、其のほか商人、船大工等ありて、平生（つね）に賑わし。且つ亦、西国筋の往返諸船の内金毘羅参詣なさんず徒はここに着船して普通寺を拝し象頭山に登る。

其の都合よきを以て此に船を待たせ参詣する者多し。

と、多度津港の繁栄ぶりを記しています。

明治に入り、年とともに国内海運も盛んになり、瀬戸内海においても大阪、神戸と中国・四国・九州を結ぶ定期航路が次第に発達し、汽船が盛んに多度津港にも出入り



大型船舶建造風景

するようになりました。従来の和船と違って、新しい蒸気船時代にあった港の整備が求められ、結果、多度津港も改修工事を行い、明治四十五（一九一二）年に完了しました。

以後、昭和四十五（一九七〇）年に臨海土地造成事業による大規模な埋め立て事業に着手し、フェリーの着岸と大工業用地の造成へと発展をとげていきました。

現在の造成地には、造船・橋梁・鉄工・食品関係の企業等が進出しています。



(元 宮川材木店)
(現 宮川建具店)



(現 宮崎時計店)

引き札は、江戸時代前期の寛文期ころから商業活動が活発になり、盛んに使用されるようになりました。商店の開店挨拶・商品広告・街頭配りなどに使われました。近代広告の元祖です。語源は定かではありませんが、お客を引く札（引き札）となった、という説があります。当初は、その商店が扱った日用品などの単色刷りでしたが、明治期に入ると多色刷りとなり、美しい・めでたい・物語性のあるものなど多彩になりました。家の壁・襖・銭湯に貼ったりして使いまわすというインテリアとしても使用されていました。

陸

STORY

多度津発、讃岐の文明開化
四国の鉄道のルーツ多度津、
それは、景山甚右衛門が上京して見た、
新橋―横浜間の汽車の強烈な印象からはじまる。



昭和10年から45年まで活躍していたSL(ハチロク)。今では、四国の鉄道発祥の地として、JR多度津駅前に展示しています。



給水塔（竣工は大正2年。鉄筋コンクリートの貯水槽は、昭和25年改築されたもの。）



明治から大正時代に建てられた「きしゃば」「右はしくら道・すぐ金刀比羅道・すぐふなバ」と記された道標。

矢よりも速い汽車！

“女ボーイ”や食堂車も登場！

明治期に入り、蒸気船の普及により、海上交通は盛んになりましたが、陸上交通の整備はまだ行われていませんでした。阪神をはじめ、中国地方などの各地から船に乗って上陸した人々は、金毘羅参詣をして、航海の安全を祈るとともに、観光や遊山を楽しむのが常套でした。多度津・丸亀は金毘羅参詣の玄関港でありながら琴平への往復は金毘羅街道を歩くか、人力車を利用するほかなかったのです。回船問屋大隅屋五代目の景山甚右衛門が上京して見た新橋―横浜間を走る蒸気機関車をヒントに、金毘羅参詣客の輸送に着眼し、鉄道の開業を計画し、明治二十二（一八八九）年、多度津を起点として、丸亀・琴平に至る讃岐鉄道株式会社を設立しました。

この鉄道は、伊予鉄道株式会社より七ヶ月程遅れましたが、四国の鉄道網は讃岐鉄道が根幹となって拡張されたもので、現在の「JR四国」のルーツとなっています。

そして、当時の人々の間では、矢よりも速いと驚かせた



景山甚右衛門



運賃表

画期的な出来事でもありました。

明治三十年には、宇多津・坂出・鴨川・国分・端岡・鬼無・高松の七駅が設置されましたが、同三十五年には美人の給仕「女ボーイ」を乗せ

がよく燃えていた。其処に20分程待つと、普通より少し小さい汽車が着いた。彼はそれに乗って金刀比羅へ向かった」と多度津駅をこう描いています。

明治三十七年、山陽鉄道との連絡運輸が始まり合併され、明治三十九年、鉄道国有法によって、国有に移管されていきました。

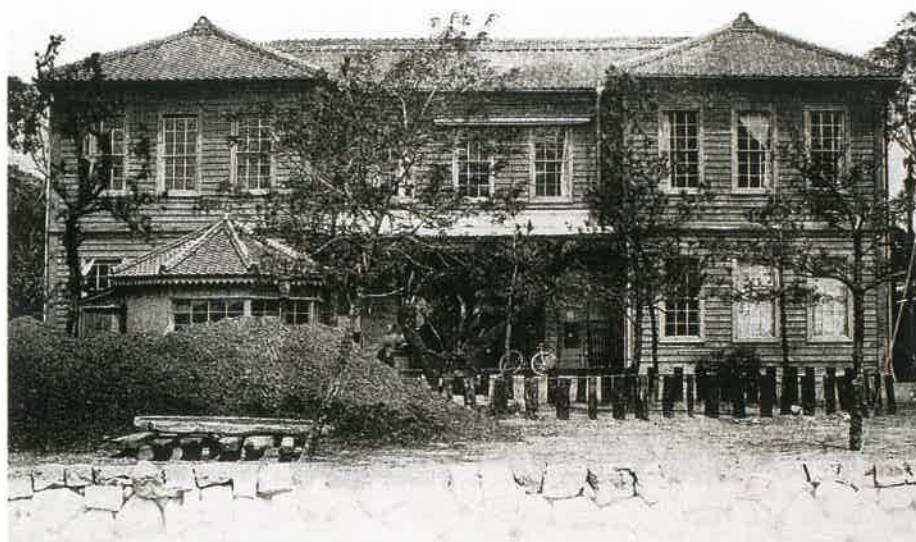
多度津は海上交通に加え、四国の鉄道発祥の地として、文明開化の旗手として歴史の一頁を飾っています。

「文明のあかり」電気事業

香川県で最初に電気事業に着眼したのは、旧藩主松平家の援助を受けて、明治二十八（一八九五）年高松電灯株式会社でした。西讃においても、丸亀・多度津・善通寺・琴平の讃岐鉄道沿線を対象に明治三十三年社名を讃岐電気株式会社として発足し、次々に点灯を開始していきましたが、石炭が値上がり、増大する需要を賄うために、新たに電源を火力から水力に切り替え、同四十三（一九一〇）年社名を四国水力電気株式会社に変更、県下各変電所を結ぶ送電線を敷設しました。

これによって電灯ばかりでなく、工場などの電力需要にも供給できるようになってきました。

以来、昭和十七年電気統制令で四国配電となり、同二十六年電力再編成では四国電力多度津支店として、香川県下電力所行の拠点となりました。



昔の駅舎



大正3年新築の四国水力電気株式会社本社



全国凧あげ大会(さくらまつりと同時開催)



さくらまつり(4月上旬)



桜たんページェント(12月)



初泳ぎ(毎年正月多度津港にて実施)

”元気です“多度津



四国八十八箇所霊場／第七十七番札所 桑多山 道隆寺

●JR多度津駅下車徒歩10分●

奈良時代のはじめ、土地の豪族、和氣道隆公が薬師如来をご本尊に祀って御堂を建てたのが起源とされています。

また、「眼なおし薬師」の名でも親しまれ、年間を通じて多くの参拝客で賑わっています。

国・県の指定文化財が数多く収蔵されています。



熊手八幡宮

●JR海岸寺駅下車徒歩15分●

応神天皇と母君を主祭神とする神社で、多度津、白方などの総氏神として信仰されています。創建の由来によると、神功皇后が三韓征伐の帰り、風波をさけてお立ち寄りになり、出発の時に兵器の熊手一本を置いていかれたところから神社名が起ったといわれています。



四国別格二十霊場／第十八番札所
屏風ヶ浦 経納山迦毘羅衛院 海岸寺

●JR予讃線海岸寺駅下車徒歩3分●

四国別格二十霊場第18番札所。宝亀4年(773年)に玉依御前が弘法大師(空海)をみごもった際に、良い子が生まれるよう願って別荘代わりに建てた産屋が海岸寺の前身と言われています。本坊の山門には仁王像の代わりに、地元出身力士の琴ヶ浜、大豪をモデルにした金剛力士像が立っています。



金剛禅総本山少林寺

●JR多度津駅下車徒歩20分●

『少林寺拳法』は、宗道臣が、昭和22(1947)年、多度津町において「人づくり」のための「行」として創始しました。日本各地のおおよそ1,500の道院では、子どもから高齢者まで世代を超えて楽しく修行しております。毎年10月には、多度津の本山で禅の開祖である達磨大師を偲ぶ、『だるま祭』が開催されます。



総おどり大会(たどつ夏まつり：8月上旬)

花火大会(総おどり大会同時開催)